

# 平成16年度病害虫発生予察 予報第11号

平成17年2月15日  
長崎県病害虫防除所長

【気象（平成17年2月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。  
向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並か少ないでしょう。  
週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目いずれも平年並でしょう。

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	50	30
降水量	30	40	30
日照時間	40	40	20

\* 予報対象地域：九州北部地域

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	現況	予想
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	やや多 並 少 やや少	やや多 並 少 やや少
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少 やや少 やや多 並 やや少 やや少 やや少	やや少 やや少 やや多 並 やや少 やや少 やや少
タマネギ	白色疫病 ボトリチス菌葉枯症 ネギアザミウマ	やや少 やや少 少	やや少 やや少 少
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 並 少 並	やや少 並 少 並

【トマト】 ( )内は平年値

1. コナジラミ類（シバ・リー・コナジラミ、オシロイコナジラミ）と黄化葉巻病

1) 予報内容

発生程度	コナジラミ類	やや少
	黄化葉巻病	やや多

- 2) 予報の根拠  
 コナジラミ類  
 (1) 2月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(寄生株率 1.4%)。  
 黄化葉巻病  
 (1) 2月上旬の巡回調査の結果、発病株率は3.2%、発生圃場数は12筆中3筆であり、一部多発地域があった。
- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) シルバーリーフコナジラミは黄化葉巻病を媒介するので密度低下に努める。  
 (2) ハウス内の防除を徹底し、コナジラミの密度を限りなくゼロにする。また、発病株の抜き取り、適正処分を徹底する。  
 (3) 訪花昆虫(ハチ)を利用するハウスでは、コナジラミ防除薬剤の選択に注意し、影響の少ない薬剤を使用する。
2. 灰色かび病  
 1) 予報内容  
 発生程度 並
- 2) 予報の根拠  
 2月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。
3. 葉かび病  
 1) 予報内容  
 発生程度 少
- 2) 予報の根拠  
 2月上旬の巡回調査の結果、発生は認めなかった(発病株率 2.4%)。

#### 【きゅうり】

1. ベと病  
 1) 予報内容  
 発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠  
 2月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は1.5%(5.1%)、発生圃場数は12筆中3筆であった。
2. うどんこ病  
 1) 予報内容  
 発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠  
 2月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は1.5%(4.0%)、発生圃場数は12筆中4筆であった。
3. 褐斑病  
 1) 予報内容  
 発生程度 やや多
- 2) 予報の根拠  
 2月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は1.8%(0.7%)、発生圃場数は12筆中5筆であった。
- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 高温多湿で発生が多くなるので、ハウスの換気を十分に行い、湿度を下げる。  
 (2) 被害葉、老化葉は発生源となるので、ハウス外に持ち出して処分する。  
 (3) 早期防除に努め、かけむらがないように十分量の薬剤を散布する。  
 (4) 薬剤感受性の低下を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する(薬剤は県防除基準参照)。
4. 菌核病  
 1) 予報内容  
 発生程度 並
- 2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.1% (0.2%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

5. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.0% (0.4%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。

6. ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.3% (1.0%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

7. コナジラミ類 (シバノリコガザミ、オシッコガザミ)

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.1% (1.1%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。

【タマネギ】

1. 白色疫病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった (発病株率 0.0%)。

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった (発病株率 0.3%)。

3. ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は7.3% (20.0%)、発生圃場数は15筆中7筆であった。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、発病株率 (葉、葉柄) は0.1% (0.8%)、発病果率は0.0% (0.1%)、発生圃場数は27筆中2筆であった。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.0%（0.1%）、発生圃場数は27筆中3筆であった。

### 3. アブラムシ類

#### 1) 予報内容

発生程度 少

#### 2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.1%（2.8%）、発生圃場数は27筆中1筆であった。

### 4. ハダニ類

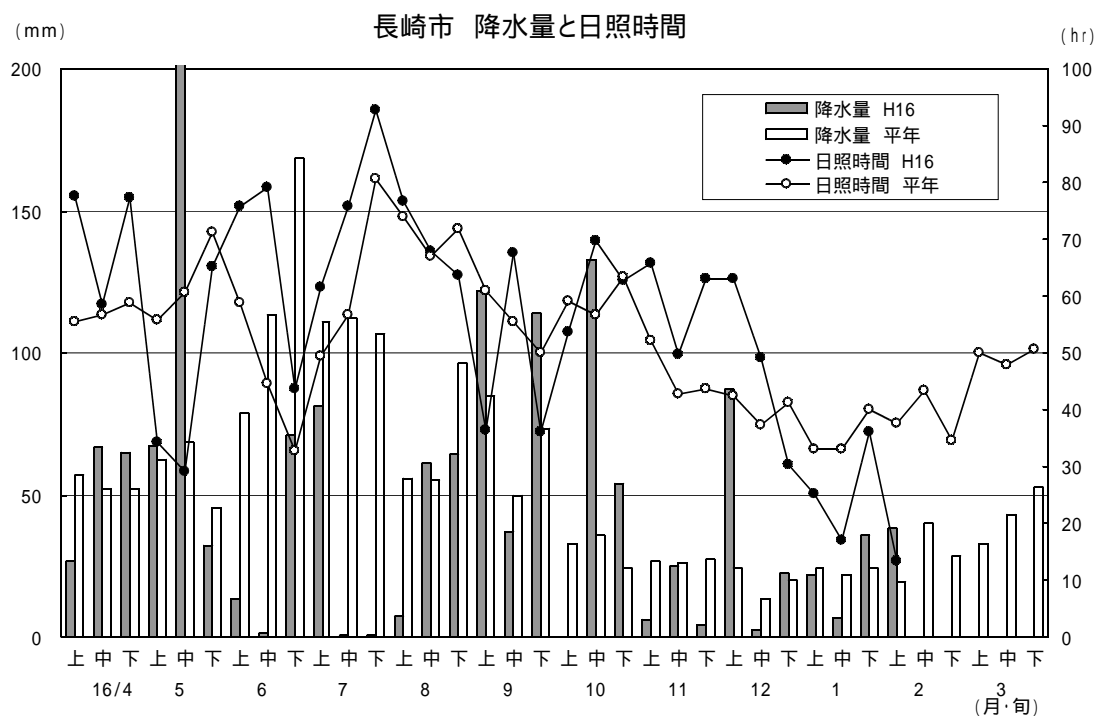
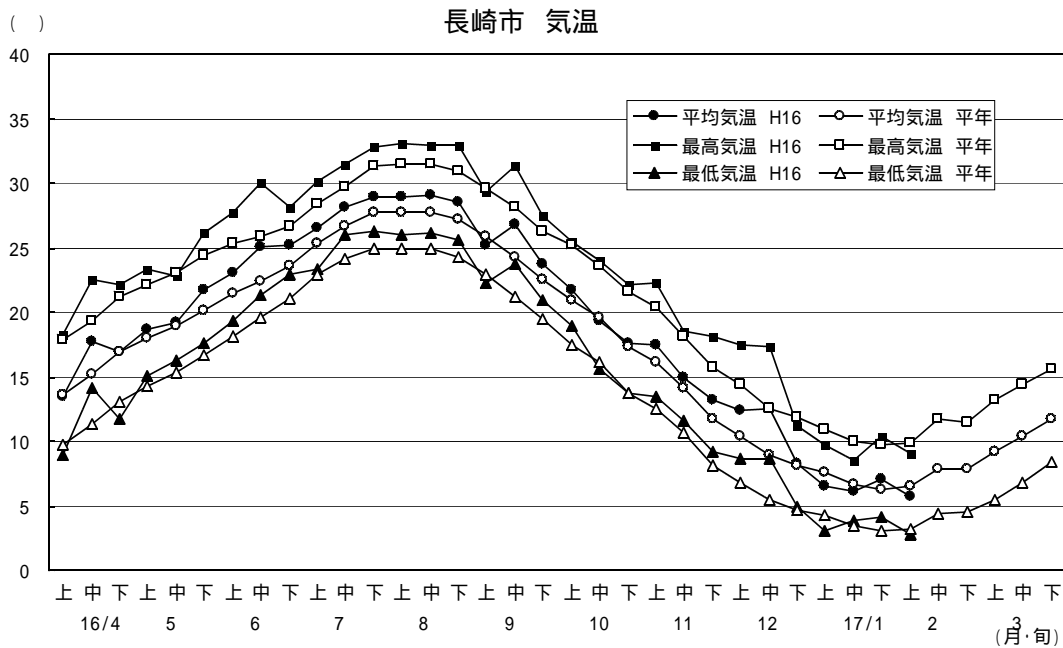
#### 1) 予報内容

発生程度 並

#### 2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は3.5%（4.7%）、発生圃場数は27筆中7筆であった。

平成16年度の気象経過（長崎海洋気象台）



# 平成16年度の気象経過（総合農林試験場）

